



軟式庭球部

■ 1947年(昭和22年)公認

部員数

33名



部長
正木 宏明
スポーツ科学術院
教授

今年度も多くのOB・OGならびに関係者の皆様へ支えていただきました。この場をお借りして心より御礼申し上げます。男子にとってはインカレ連覇への挑戦でした。健闘したものの連覇の難しさを痛感させられました。それでも男子ともに大学対抗で8位に入り、来年に繋がる底力を示してくれたと思います。男子は個人の活躍が顕著でしたので、来年度はチーム総合力を醸成してくれることでしょうか。女子については部員が増えたことは喜ばしいことでしたし、実際に団体個人ともに好成績を残してくれました。早稲田スポーツ全体のさらなる躍進とすべての部員の皆様のご活躍を祈念しております。



監督
小野寺 剛

男子に関して予想はしていたが厳しいシーズンとなった。昨年インカレ優勝を奪還した4年生が多く卒業し戦力ダウンが否めない中、推薦入試等による戦力補強が相変わらず困難であり、関東リーグや入替戦でも苦杯をなめ続けた。インカレでは意地を見せてベスト8に何とか残ることはできたが戦力的に精一杯の結果と評価している。さらに戦力不足が続くが今年松本主将を中心に変わらぬ努力を続けた伝統を維持して、次年度以降の奮闘に期待したい。女子は部員数少ないが戦力的には戦えるチームであったので、後一步日本一に近づくことができなかったことが悔やまれる。個人戦では優勝こそ無かったが上位進出力を見せたので、次年度は高橋主将を中心に久々の日本一奪還を期待している。



主将
松本 翔太
スポーツ科学部
尽誠学園

昨年9月から新チームが始動し、前年度の全国制覇の重責を背負い、主将を務めさせていただきました。チームでは、学年や経験を問わず、仲間の多様な意見を受け止め、試行錯誤しながらチームづくりに取り組んできました。全国優勝を目指して尽力しましたが、目標とする結果を残せず、悔しさが残ります。しかし、目標に向かって努力した過程は、今後の社会での財産になると確信しています。最後までソフトテニスが続けられたのは、OB・OGをはじめ、監督、保護者の方々の温かいご支援があったからです。この感謝の気持ちを忘れずには、今後はOBの一員として早稲田大学軟式庭球部を支えていきたいと考えております。



主務
渡 健博
スポーツ科学部
徳山

私は主務としてこの一年間、インカレ2連覇を達成するため、チームを根幹から全力でサポートすることを目標としてきました。昨年日本一奪還を間近で経験した私は、卒業された四年生の意思や想いを受け継ぎ、チームに反映することを心がけてきました。また、四年間熱く愛のあるご指導をいただいた小野寺監督、大平コーチ、そして遠方から必死に足を運んでいただいたOB・OGの皆さんに必ず結果で恩返しするという一心で、部員全員が努力を重ねました。多くの想いを背負って臨んだインカレでしたが、結果として目標としていた2連覇には届きませんでした。しかし、その過程に間違いはなく、この経験が今後の人生の大きな糧になると信じています。



女子主務
半田 穂乃花
スポーツ科学部
東北

私たち軟式庭球部は、4年生1人、3年生3人、2年生2人、1年生2人の計8名で活動を行ってきました。非常に少ない人数での活動にはなりましたが、少ない人数だからこそできることに焦点を当てて取り組んだ結果、インカレでは3年ぶりにベスト8に入賞することができました。しかしながら、目標の優勝を達成することができず悔しさも残る結果となりました。今年出場した選手が来年も多く残ることで経験値も十分にあるより強いチームになっているはずです。来年こそはベスト8の壁を越え、優勝を目標に日々の練習に励んでほしいと同時に私も活動を支えていきたいと思っております。



女子主務
山田 菜乃葉
スポーツ科学部
埼玉平成

軟式庭球部は4年生1人、3年生3人、2年生2人、1年生2人という少人数ながら、「癒」というチームの言葉のもと、日々互いを高め合いながら活動してきました。部員一人ひとりの意見が反映しやすく、自分の課題を分析して練習メニューを考えたりと自主性を中心に練習に励みました。その中でチームとしての一体感も深まり、今年はインカレでベスト8という結果を残すことが出来ました。日本一には及びませんでしたが、私自身もう1年主務として、仲間とともに挑戦を続け日本一を目指していきたいです。

▷準決勝 ⑤-2天間・左近組(日体大)
▷決勝 3-⑥大橋・青松組(明治大)
◇第68回東日本学生シングルスソフトテニス選手権大会 (7月8日~9日)

大和 美月選手 準優勝
▷準決勝 ④-0高橋 瑚子選手(早大)
▷決勝 3-④青松 淑佳選手(明治大)
高橋 瑚子選手 第三位
佐藤 心美選手 第三位

◇第79回文部科学大臣杯全日本大学対抗ソフトテニス選手権大会 (8月30日~31日)

男子 ベスト8
▷四回戦 ③-2関西外国語大学
▷準々決勝 1-③明治大学
女子 ベスト8
▷四回戦 ③-1関西大学
▷準決勝 0-③日本体育大学

◇第80回三笠宮賜杯全日本学生ソフトテニス選手権大会 (9月1日~2日)

浅見・安達組 第三位
▷準々決勝 ⑤-1鈴木・関川組(中央大)
▷準決勝 1-⑤片岡・黒坂組(日体大)

◇第67回全日本学生ソフトテニスシングルス選手権大会 (9月2日~3日)

高橋 瑚子選手 第三位
▷準々決勝 ④-1五十嵐 美結選手(日体大)
▷準決勝 0-④吉木 理彩選手(日体大)

◇第89回早関軟式庭球定期戦 (9月14日)
男子 優勝
▷早大⑥-5関学大
女子 優勝
▷早大③-0関学大
◇第32回全日本ジュニアソフトテニス選手権大会 (10月18日~19日)

浅見・安達組 第三位
▷準々決勝 ④-1 清水・荻谷組(同志社大・高田商業高校)
▷準決勝 2-④ 森・小山組(明治大・日体大)
佐藤 心美選手 第三位
▷準々決勝 ④-0 柴田 凜選手(関西大)
▷準決勝 0-④ 前川 愛生選手(広島翔洋高校)

◇第148回秋季東京六大学ソフトテニスリーグ戦 (11月1日~2日)

男子 準優勝
女子 優勝

◇第80回天皇賜杯・皇后賜杯全日本ソフトテニス選手権大会 (11月6日~8日)

浅見・安達組 ベスト8
▷5回戦 ⑤-3 坂本・池口組(ワタキュー・セイメイア)
▷準々決勝 1-⑤ 上岡・丸山組(Uprise・one team)
佐藤・青木組 ベスト8
▷5回戦 ⑤-3 松岡・向山組(日体大)
▷準々決勝 0-⑤ 浪岡・久保組(ナガセケンコー)

◇令和7年度関東学生ソフトテニス秋季リーグ戦 (11月15日~16日)

女子 第三位

本年度試合戦績

成績(早稲田勝利:○、引き分け△、敗戦●)

◇春季東京六大学ソフトテニスリーグ戦 (4月19日~20日)

男子 準優勝
女子 準優勝

◇第48回東京六大学ソフトテニス選手権大会 (5月5日)

一ノ宮・伊藤組 第三位
▷準々決勝 ⑤-4 笹井・北爪組(立教大)
▷準決勝 2-⑤坂口・小山組(明治大)
大和・半田組 優勝

▷準決勝 ⑤-3 鈴木・廣瀬組(立教大)
▷決勝 ⑥-1 大橋・青松組(明治大)

◇第76回関東学生ソフトテニス選手権大会 (5月12日)

高田・松本組 第五位
▷六回戦 ⑤-3 長野・金澤組(中央大)

▷準々決勝 3-⑤小池・村田組(慶応大)

◇令和7年度春季早慶定期戦 (6月29日)

男子 優勝
▷早大⑥-1 慶大
女子 優勝
▷早大③-0 慶大

◇第75回東日本大学対抗ソフトテニス競技大会 (7月5日~6日)

女子 第三位
▷準々決勝 ③-1 國學院大学
▷準決勝 1-③日本体育大学

◇第80回東日本学生ソフトテニス選手権大会 (7月7日~8日)
佐藤・青木組 準優勝

